

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370476

研究課題名(和文) アンドラ公国の言語と言語政策に関する記述的研究

研究課題名(英文) Descriptive study of the language and its linguistic policy about the Catalan language in the Principate of Andorra.

研究代表者

長谷川 信弥 (HASEGAWA, Shinya)

大阪大学・言語文化研究科(研究院)・教授

研究者番号：20228448

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、カタロニア語を公用語と定めているピレネー山脈の小国、アンドラ公国で使用されているカタロニア語の状況を記述することが目的である。カタロニア語のひとつの方言と考えられる同国の言語様態を記述し、また同国での言語政策及びそれによる言語教育がどのようにおこなわれているかを資料収集、面接調査を通じて明らかにすることができた。これらの成果は、研究発表としていくつかの学会研究会で発表した。

研究成果の概要(英文)：This study focuses on the linguistic descriptions about the Catalan language in the Principate of Andorra, where the Catalan is an official language. Our linguistic descriptions are about its grammar and also about the linguistic policy and educational situation of this small country. These descriptions were announced in some meetings of the linguistic societies as a research announcement.

研究分野：カタロニア語学

キーワード：カタロニア語 アンドラ公国 言語政策 言語教育

1. 研究開始当初の背景

アンドラ公国におけるカタロニア語は、バルセロナを中心とするカタロニア語の一方言として位置づけられるが、アンドラ国内に大学等の研究機関がないことから、方言形式に関する研究が不足していた。とくに語彙については、1960年代に作成された言語地図があるのみで、近年でも方言的語彙を収集した語彙集などが散見されるにすぎず、新たな記述が必要とされていた。カタロニア語の一方言としての特徴の記述と近年の語彙の変化が記述可能と考えられていた。また、言語政策については、1999年に施行された言語政策法に対する評価を与えることが求められていた。しかも、近年の国境を越えた欧州全体の経済活動にともなう国全体の人口構成を変化させる急激な人口増加の結果、言語政策も転換を強いられ、移民に対する言語教育の重点化への転換が進められており、この点を網羅的に記述するために、言語政策担当部局、教育機関、報道機関での聞き取り調査が必要であった。

2. 研究の目的

スペインとフランスの国境線上ピレネー山脈に位置するアンドラ公国の言語(カタロニア語の言語変種)と言語政策を記述することを目的とした。カタロニア語の一方言としての特徴の記述と近年の語彙の変化を記述すること、また、多言語社会である同国の言語政策の実態調査を通じて、ロマンス語が交錯するアンドラにおける言語接触の現代的様相の一端を明らかにすることを具体的な目的とした。これにより、言語による社会統合と移民問題という今日的課題に新たな視点を提供し、これまでおこなってきたカタロニア語周縁地域の言語と言語政策に関する記述的諸研究との比較から新たな知見を得ることができると考えた。

3. 研究の方法

本研究は、該当国での言語政策に関する施策を面接等により調査する必要があり、また、

関連図書が該当国内でのみ流通しているため、現地に赴く必要があった。現地では、政府言語政策局、教育機関、報道機関において聞き取り調査をおこなった。

また、言語の記述に関しては、有効な資料を日本の各大学が所有しておらず、アンドラ国立図書館および、カタロニア語研究の中心地であるバルセロナ、特にバルセロナ大学図書館での図書の閲覧、資料収集および関連図書の購入が必要であった。

記述方法は、言語の記述は長谷川信弥(研究代表者。以下、代表者)が、言語政策に関する調査を塚原信行(研究分担者。以下、分担者)がおこない、必要に応じて互いの役割を補完することも可能なよう、平素から連絡を密にとることにした。

4. 研究成果

(1) 2013年度は、2013年9月12日、代表者がバルセロナ大学において、アンドラの言語(カタロニア語の方言)に関する基礎資料として言語地図からのデータを取得した。9月16日にはアンドラ公国において、アンドラ国立図書館および政府言語政策局においてカタロニア語の方言に関する文献の閲覧とデータの複写をおこなった。また、9月20日にはバルセロナ自治大学において、アンドラの言語のついでに図書を閲覧および複写した。また、2013年12月1日、関西スペイン語学研究会第369回例会において、代表者と分担者のそれぞれが「アンドラ公国の言語について」のタイトルで研究発表をおこなった。発表で、代表者は同年9月のアンドラ公国での資料収集の成果を、分担者はこれまでのアンドラ公国の言語政策の沿革についての資料調査の成果を発表した。2014年3月6日、分担者が内戦資料館(Salamanca)にて、アンドラ関係文書の有無をカタログ等により確認した。続いて、3月12日、アンドラ公国政府言語政策部長 Joan Sans 氏に対する聞き取り調査実施(Andorra La Vella)した。また、

3月13日、Escaldes-Engordany のアンドラ学校を訪問し、校長の Meritxell Massoni 氏に対する聞き取り調査、および授業参観を実施した（就学前クラス・小学校4年と6年の各クラス）。

(2) 2014年度は、代表者、分担者とも、2013年度に収集したアンドラ公国の基本的情報の整理と記述を日常的におこなった。そのうえで、代表者は現地において、新たな資料の収集ができ、分担者は同国の言語政策についての面接をおこない、希望していた教育機関での面接および授業参観した。代表者は、平成26年度も前年度に引きつづき、アンドラの言語に関する研究については、必要な資料の収集をおこなった。具体的には、2014年9月に資料収集のためアンドラ国立図書館においてアンドラの言語に関するアンドラ国内で発表された論文を入手し、さらにカタロニア語全般にわたる資料収集をバルセロナ大学でおこなった。これらの資料は電子化されているものが少なく、現地にて複写等の方法で入手する以外に方法はなく、得られた資料は日本におけるアンドラの言語研究にとって必要不可欠なものとして分析をおこなった。とくに1960年代の言語調査の結果を記載した言語地図は、アンドラ国内のカタロニア語方言分布を知るうえで重要な資料で、近年の言語調査の結果との比較は方言形式の変化の分析にとって有意義なものである。また、分担者は、2015年3月にアンドラ政府言語政策局で担当係官との面接をおこない、言語政策に関する現状と今後の方針についての説明を受けた。さらに国内にある初等中等教育機関を訪問し、教員への面接をおこない、また授業を参観する機会を得た。これらの実施項目は、アンドラの言語政策を分析するうえで貴重な資料としての価値を持つものである。また分担者は、上記の教育機関での面接および授業参観の報告を「アンドラ公国の初等中等教育における教育改革」と題

して、関西スペイン語学研究会例会で2015年3月におこなった。

(3) 2015年度は、代表者は、2015年9月に前年度に引き続き、アンドラ公国国立図書館およびバルセロナ大学において、アンドラにおけるカタロニア語の資料を収集した。まず、9月17日および18日に基礎資料として、1930年代にスペインで途中まで作成され公刊されたイベリア半島の言語地図（通称ALPI）におけるアンドラ公国内のデータ、また1962年にアンドラで作成されスペインで発行された言語地図があるが、これらを所蔵しているバルセロナ大学図書館において閲覧、データの収集、複写をおこなった。また、現在、順次刊行が進められているカタロニア語圏言語地図のデータも複写した。さらに、9月21日から25日に、アンドラ公国国立図書館では、1970年代に同国内で発行された出版物、とくに民話や小説などのコーパスとなり得る資料を閲覧し、法令で許された範囲でこれらの資料の複写をおこなった。こういったアンドラ国内で刊行されている出版物、とくに20世紀末までのものは、スペインでは流通しておらず、アンドラ公国に出向いて収集する必要があると、同国国立図書館での収集は成果の大きいものである。分担者は、前年度に続き、2016年3月15日にアンドラ政府言語政策部門長 Joan Sans 氏と面談し、過去1年の言語政策の状況について聞き取りをおこない、政策上の状況には大きな変化のないことを確認した。また、3月16日には前年度に続きアンドラ Escaldes-Engordany 初等学校を再訪問、Meritxell Massoni 校長と面談し、コンピューテンシーベースカリキュラムへの移行状況について聞き取り調査をおこなった。その結果、順調に移行中であることが判明し、同国の教育現場における改革の進捗状況を確認できた。以上のことから、研究期間に計画した調査、資料収集は予定通りおこなうことができたと判断できる。また、

代表者は 2017 年 1 月に、分担者は 2016 年 10 月に、ともに関西スペイン語学研究会例会にて上記の研究成果を口頭発表する予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1 件)

萩尾 生、長谷川 信弥、塚原 信行、柿原 武史「越境する少数言語の射程 現代スペインにおける国家語と少数言語の対外普及政策」、『ことばと社会』第 17 巻、p.112-159、三元社、2015 年、査読あり

[学会発表](計 3 件)

長谷川 信弥『カタロニア語の評価接尾辞について』関西スペイン語学研究会第 386 回例会、関西学院大学梅田キャンパス(大阪市)、2015 年 6 月 7 日

塚原 信行『アンドラ公国の初等中等教育における教育改革』関西スペイン語学研究会第 383 回例会、キャンパスプラザ京都(京都市)、2015 年 3 月 24 日

長谷川 信弥、塚原 信行『アンドラ公国の言語について』関西スペイン語学研究会第 369 回例会、関西学院大学梅田キャンパス(大阪市)、2013 年 12 月 1 日

[図書](計 3 件)

塚原 信行『外国語教育 VI 言語(外国語)教育の理念・字実践案集』p.378-380、朝日出版社、2015 年

塚原 信行「法律分野スペイン語のカタルーニャ語への翻訳」堀田英夫編『法生活空間におけるスペイン語の用法研究』p.201-218、ひつじ書房、2015 年

長谷川 信弥『カタルーニャを知るための 50 章』p.52-60、p.65-68、p.183-192、立石博高、奥野良知(編)、明石書店、2013 年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

長谷川 信弥 (HASEGAWA, Shinya)

大阪大学・言語文化研究科・教授

研究者番号：20228448

(2) 研究分担者

塚原 信行 (TUKAHARA, Nobuyuki)

京都大学・国際高等教育院・准教授

研究者番号：20405153